

青磁のモニタージュ

寺田寅彦

青空文庫

「黒色のほがらかさ」ともいうものの象徴が黒^{くろ}楽^{らく}の陶器だとすると、「緑色の憂愁」のシンボルはさしむき青磁であろう。前者の豪健^{かつたつ}闊^{かつたつ}達^{かつたつ}に対して後者にはどこか女性的なセンチメンタリズムのにおいがある。それでたぶん、年じゅう胃が悪くて時々神経衰弱に見舞われる自分のような人間には楽焼きの明るさも恋しいがまた同時に青磁にも自然の同情があるのかもしれない。

故夏^{なつめ}目^{そう}漱^{せき}石先生も青磁の好きな人間の仲間であつたが、先生も胃が悪くて神経衰弱であつたのである。先生は青磁の鉢^{はち}に羊^{よう}羹^{かん}を盛った色彩の感じを賞したことがあつたように記憶する。

青磁の皿^{さら}にまっかなまぐろのさしみとまっ白なおろし大根を盛

ったモンタージュはちよつと美しいものの一つである。いきのよ
いさしみの光沢はどこか陶器の光沢と相通ずるものがある。逆に
言えば陶器の肌はだの感触には生きた肉の感じに似たものがある。あ
る意味において陶器のかんしょう 翫賞はエロチシズムの一変形であるの
かもしれない。

青磁の徳利にすすきとききょう 桔梗でも生けると実にさびしい秋の感
覚がにじんだ。あまりにさびしすぎて困るかもしれない。

青磁の香炉にあからく 赤楽の香合のモンタージュもちよつと美しいも
のだと思う。秋の空を背景とした柿かきもみじを見るような感じがす
る。

博物館などのように青磁は青磁、楽は楽と分類的に陳列してあ

るのも結構ではあるが、しかしそういう器物の効果を十分に発揮させるようなモンタージュを見せてくれる展覧会などもたまにはあつていいかもしれない。もつとも茶会の記事などを見ると実際自分の考えているようなモンタージュ展を實行しているのであるが、それは限られた少数の人だけのためのものでだれでもいつでも見られる種類のものではない。

にしかわいっそうてい
西川一草亭の生花の展覧会などはある意味で花やくだものと容器とのモンタージュの展覧会であるが、あれをもつと拡張したような展観方法があつてもいいと思う。

器物の美にはもちろんそれ自身に内在する美があるには相違ないが、それを充分に発揮させるためにはその器物の用と関連し

たモンタージュの把握はあくが必要ではないかと考えるのである。

赤楽の茶わんもトマトスープでも入れられては困るであろう。

(昭和六年十二月、雑味)

青空文庫情報

底本：「寺田寅彦隨筆集 第三卷」小宮豊隆編、岩波文庫、岩波書店

1948（昭和23）年5月15日第1刷発行

1963（昭和38）年4月16日第20刷改版発行

1997（平成9）年9月5日第64刷発行

入力：(株)モモ

校正：かとうかおり

2003年6月25日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.azora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

青磁のモニタージュ

寺田寅彦

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>